

抑制トマトへのネバリン施用による結果報告書

日本肥糧株式会社

1) 目的 抑制トマトへのネバリン施用による作物の生育に及ぼす効果の検討。

2) 設置場所 茨城県銚田市

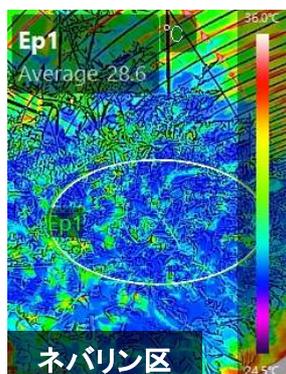
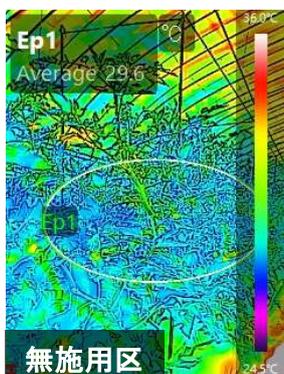
3) 調査日 2023年8月10日、10月13日

4) 試験概要 試験期間：6～10月
 品目：トマト
 施肥は慣行通り行い、試験区にネバリン100kg/10a施用

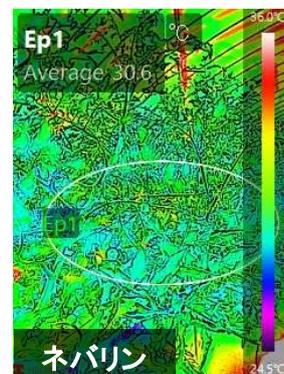
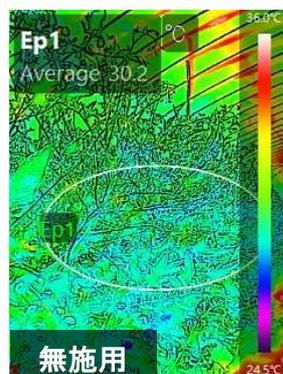
5) 調査結果

① トマトの葉面温度の測定結果

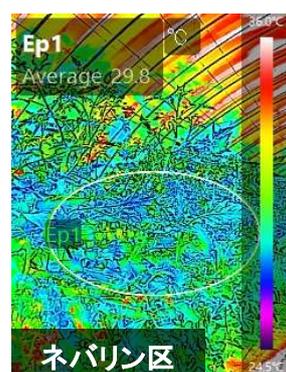
撮影日：2023年8月10日 天候☀ 最高気温31.9℃ 最低気温24.4℃



圃場①



圃場②



圃場③



	平均葉面温度(°C)		温度差(°C)
	無施用区	ネバリン区	
圃場①	29.6	28.6	-1.0
圃場②	30.2	30.6	0.4
圃場③	31.4	29.8	-1.6

表1. 栽培期間中の葉面温度

②根部掘り取り調査結果

撮影日：2023年10月17日 ※葉面温度測定圃場とは別圃場を掘り取り



写真1. 根部を比較した様子



写真2. 写真1を拡大した様子

5) 結果及び考察

- ① 今年記録的な高温などによる天候不順により全国的に見ても生育が芳しくない厳しい年であった。
- ② トマトの葉面温度に関しては、圃場②では差は見られなかったものの圃場①、③においてネバリン区の方が葉面温度が低くなっていた。この結果は他産地、他作物でも見られる傾向が見られており、考えられる要因としてネバリンを施用することで根張りが良くなったため、蒸散効率も良くなり葉面温度の低下に影響を与えていると思われる。
- ③ 根部の様子に関しては、無施用区では根の色が褐変してしまっており主根、側根が細いのに対して、ネバリン区では無施用区に比べて根の褐変もなく主根、側根が無施用区よりしっかりしている様子が確認出来た。
- ④ 以上のことから、ネバリンの施用が作物の高温などのストレス軽減の一助になる可能性が考えられる。

以上